



2009年8月13日

「不妊症」

Q：結婚して6年経ちますが、未だに子供が出来ません。病院で、嫁と共に検査した事もありますが、異常はありませんでした！人工授精も二度程行いましたがダメでした。嫁は毎日基礎体温を付けて管理していますが、全然ダメです・・・
漢方はまだトライしてないですケド、もう どうしたら良いか解りません。
どうか、アドバイスをいただけないでしょうか。 (Mさん 31歳 男性)

A：「不妊症」に関しては、私自身も約20年近く漢方薬で追及してきました。

今の相談で一番多いのは、機能的な面での不妊症のようです。

Mさんのように、検査では問題ないのに、妊娠できないケースがほとんどです。

次に多いのは、子宮内膜症や多嚢胞性卵巣(PCOS)など子宮や卵巣の働きに問題がある場合です。今回は機能的な不妊症と漢方薬の考え方について簡単に説明します。妊娠するにはポイントが3つあります。

1つ目は、受精です。当たり前ですが、精子と卵子が受精できなければ妊娠することはできません。しかし、何らかの理由で受精が出来ないことがあります。

2つ目は、分割のスピードに問題がある場合です。通常、受精すると約7日から9日で子宮に受精卵は到着します。それまでに着床できる状態に発育していなければなりません。せっかく受精しても、途中で発育が遅れたり止まれば妊娠できません。

3つ目は、着床し、胎盤を形成することです。せっかく分割が進んでも、ハッチング(脱皮)できなかつたりすると着床できません。また、しっかりとした胎盤を作らなければ赤ちゃんを育てることができません。

漢方薬ではこの一連の流れに腎精(じんせい)と呼ばれる気(き)が関わっていると考えています。欧米の研究でも受精卵の細胞質のミトコンドリアの数が多くATPと呼ばれるエネルギーをたくさん作る卵の方が分割や着床などの率が高まると報告があります。漢方薬はまさにこの点で優れていると考えられます。とくに、**補腎薬**は中医学の最大の特徴です。鹿の角・タツノオトシゴなど動物性漢方薬が大変有効と考えられます。漢方薬は個人の体質で異なりますので、漢方薬の専門家に一度ご夫婦でご相談下さい。

ワンポイント！

補腎薬(ほじんやく)とは？漢方でいう「腎」とは単に腎臓を指すのではなく、泌尿器・生殖器系、ホルモン系、神経系、さらにカルシウム代謝や免疫、成長などに関する働きを含む幅広いものです。この「腎」の働きを補い回復させる「補腎」の目的で使用される漢方薬の事です。